平成２８年度
一人一人に目を向けたアドバンスド事業

事業の目的

埼玉県学力・学習状況調査の結果を活用し、児童生徒の状況に応じた市町村提案型の学力向上策を展開し、取組の成果を県内に普及する。

委託地区　**八潮市　大原中学校区（大曽根小学校）**

研究の実践

毎日のステップアップタイム

- 図を使った問題から数直線のかき方まで、学年の実態に応じて問題を工夫する。
- 担任外の教員も各学年に振り分けて個別支援にあたる。基本問題と応用問題を取り入れ、上位児童にも対応する。問題は担任外の教員が作成印刷する。
- 図、式、言葉を関連付けて考え、数直線や線分図をかけるようになったことで、数の関係をつかみ、立式ができ、解答を導き出せるようになった。
- 図形領域での復習も問題としてスパイラルに取り入れたため、公式が定着した。

算数カルテの活用

- 学期ごとに学習した内容が児童一人一人に定着しているのかを把握することができた。
- つまずきが見られる学習内容に対して、補充的な学習を行うことで児童一人一人に学習内容が定着した。
- 算数カルテテスト満点賞などの取組から児童の意欲が向上し、算数カルテテストで満点を取ろうとする姿勢や満点に向けて復習する取組が多くなった。

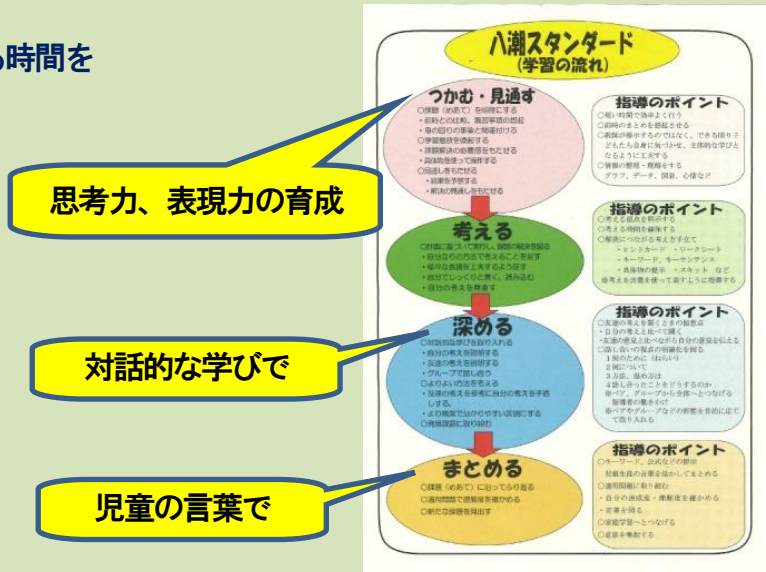
個別指導の充実

- 学期ごとの短縮日課の放課後に学習内容の確実な定着を目指す児童を対象にチャレンジスクールを実施した。学習内容の理解が不十分だと思われる内容を一人一人重点的に学習した。
- 校長室スクールは学年ごとに実施し、算数の概念の定着を図った。
- サマースクール・ウインタースクール等の長期休業日の補充学習も実施した。

八潮スタンダードの活用

➢端的な導入
➢児童の考える時間、学び合う時間、習熟を図る時間を十分に確保する。

全教科での授業の流れ



教師の授業力の向上

➢研究授業前には、教職員が児童役となり、教員全員で模擬授業を行う。
➢内容を検討後、さらに他のクラスで事前授業を行う。
➢事前授業を含め全教員が授業を行い、指導力の向上を図る。

【全教職員での模擬授業】

【模擬授業後の協議】

研究の成果（対象児童の学力が伸びた要因と考えられること）

➢毎日１０分間のステップアップタイムに取り組むことによって、数直線がかけるようになり、文章題や応用問題に対応できるようになった。また、既習内容を復習することで定着を図ることができた。（児童）
➢算数カルテにより児童のつまずきを児童本人、教員がともに把握し、補充学習によって、学習内容の定着を図ることができた。（児童・教員）

➢補充的な学習により、学習内容の定着が十分な児童に対して、個に応じた指導ができ、学習内容の定着を図ることができた。（教員）
➢八潮スタンダードを活用した授業を実施することにより、導入の時間を短くし児童の思考する時間を十分に確保することができた。（教員）

研究の課題

➢学力の伸びが低い児童に対する意欲づけと学力向上の手立て
➢埼玉県学力・学習状況調査結果の詳細な分析による有効な手立ての検証と修正